

地理、自然環境、歴史・文化の特徴

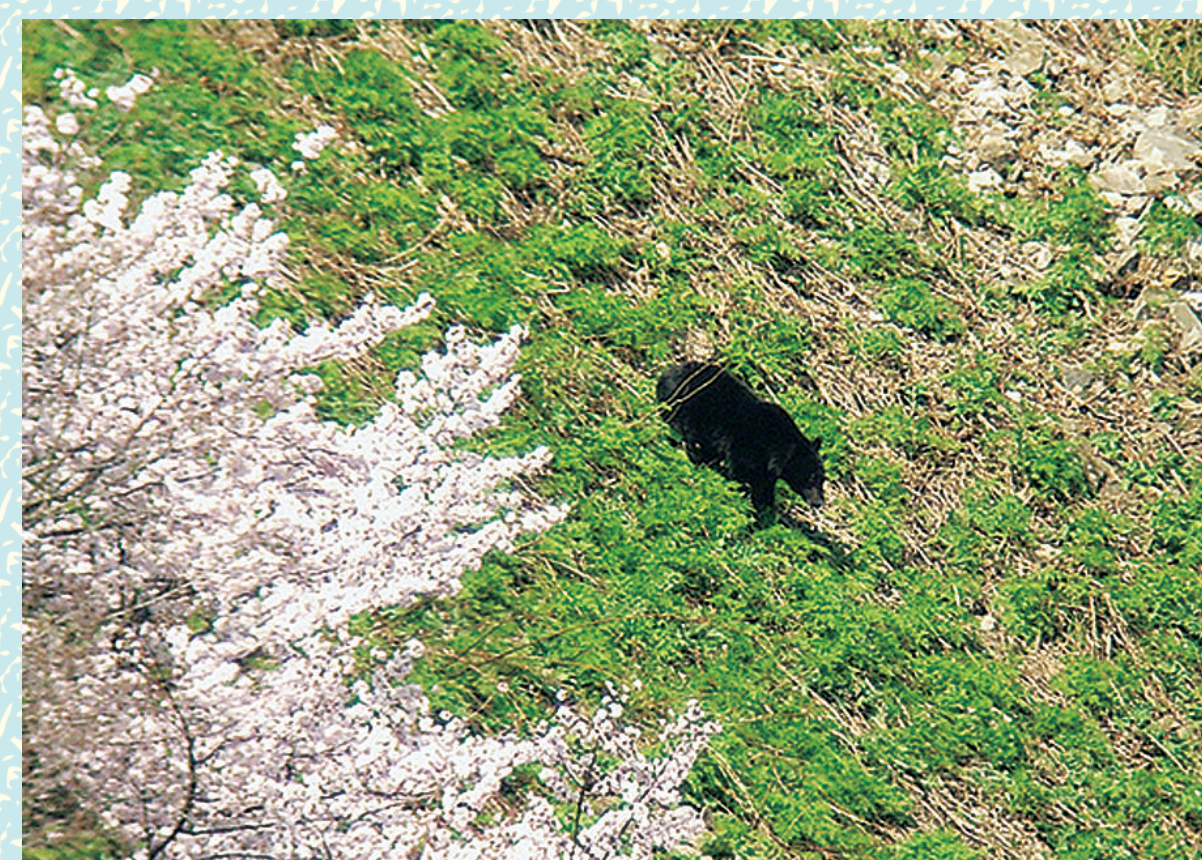
白山ユネスコエコパークは石川県と岐阜県、富山県、福井県の県境にまたがり、東を庄川、西を手取川、南を大野盆地と九頭竜川に囲まれ、白山（2702m）を中心とする地域です。本州の日本海側に位置するため、冬は日本海の雪雲を受け止め、山頂から山麓にかけて多量の雪が降り積もります。

山麓より山頂部にかけて、暖温帯から高山帯に及ぶ典型的な植生の垂直分布がみられます。冷温帯にはブナ林が広がり、ニホンザルやニホンカモシカ、ツキノワグマなどの大型哺乳類のほか、イヌワシなどの猛禽類が生息しています。亜高山帯ではオオシラビソ、コメツガ、ダケカンバなどが構成する森林が広く成立しています。高山帯は日本の高山帯の分布の西端にあたり、ハイマツ群落やお花畑が発達しています。

ハクサンコザクラ、ハクサンイチゲ、ハクサンチドリ、ハクサンフウロなど和名に「ハクサン」が付く植物の多さでも知られています。



ハクサンチドリ



ツキノワグマ



ニホンザル



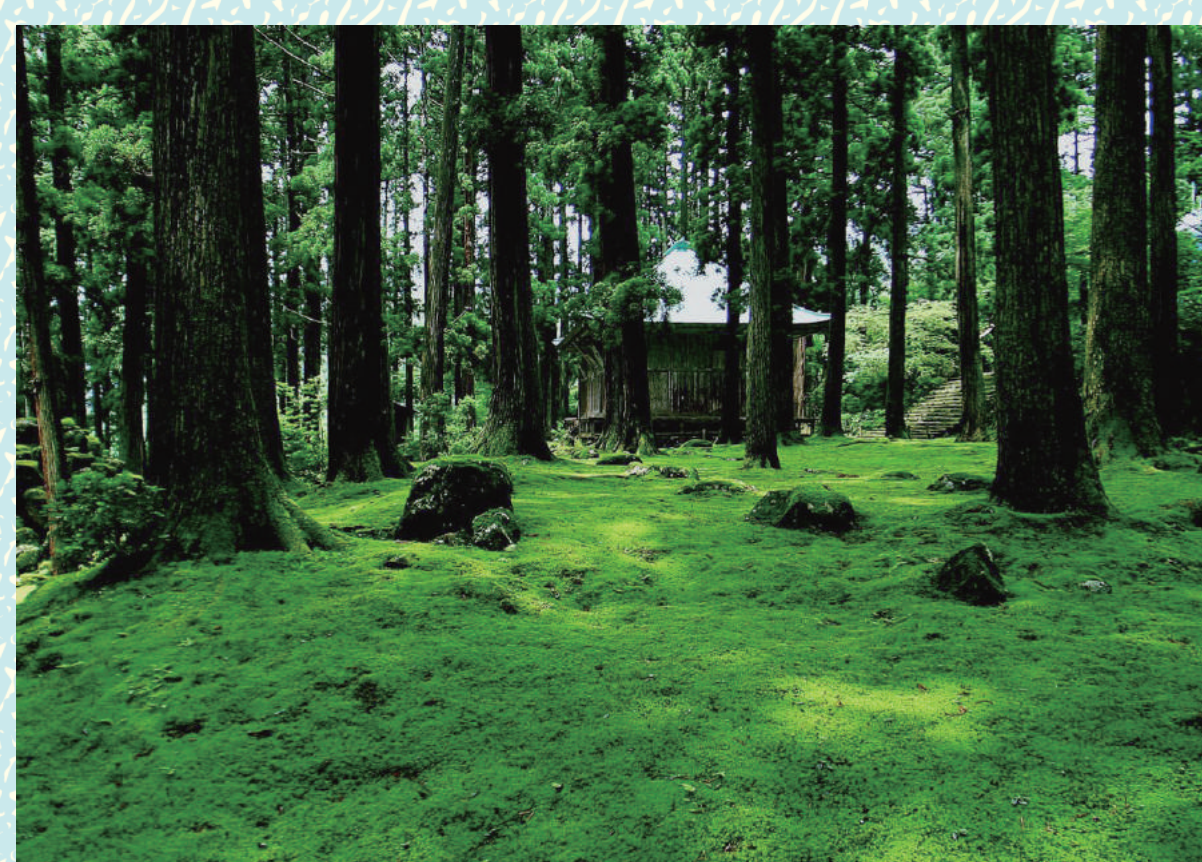
クロユリ



白川郷の荻町合掌造り集落



白山中居神社



平泉寺白山神社



五箇山の菅沼合掌造り集落

山麓では、こうした自然環境に適応した人々の暮らしが営まれてきました。その象徴のひとつが、ユネスコ世界文化遺産に登録されている、五箇山や白川郷の合掌造り集落です。

白山は、古くから多くの人々の信仰を集めてきた山でもあります。加賀（石川県）・越前（福井県）・美濃（岐阜県）の三方向から白山へ向かう登拝の道が開かれていたほか、日本全国に約3,000の白山神社が広がっています。

ユネスコエコパークへの取り組み (地域振興策)

白山ユネスコエコパークでは、環白山地域全体の振興を目指して、まずは地域で取り組まれている保全・教育・地域振興などの活動に関する情報の集約を進めており、それを基盤に白山ユネスコエコパーク全体の管理運営計画を策定していきます。そして、自然を敬い、守り、活かしていく世界的なモデルとして、“白山”を世界に向けて発信していきます。

【お問い合わせ】

白山ユネスコエコパーク協議会
〒924-8688
石川県白山市倉光2丁目1番地
白山市観光文化部ジオパーク・エコパーク推進室内
TEL.076-274-9564 FAX.076-274-9546
E-mail: ecopark@city.hakusan.lg.jp
WEBサイト: <http://hakusan-br.jp>



白山ユネスコエコパーク
WEBサイト